

CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 【特集】まごころを、きみにー奥州ふるさと応援寄附（ふるさと納税）謝礼品ー
- 6 介護予防・日常生活支援総合事業を4月から始めます
- 10 はい！こちら総合相談室
- 12 要介護認定等訪問調査員・介護予防支援員を募集
全国の舞台で活躍
- 13 百歳おめでとう
上埴市行政区を2つに分割
市営住宅入居者募集
- 14 成人式 グラフ
- 16 次世代に守り継ぐもの～日高火防祭と歩む奥州の歴史～
- 17 江刺甚句まつりステージ発表の出演団体を募集
I W A T E 奥州ブレイブ
ヒーローズ～江刺冬の陣～
避難準備情報などの名称変更について
- 18 まちの話題
- 19 市政ズームイン
- 20 夢トーク
青春讃歌
- 21 雨の日も晴れの日も
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 22 我が家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 23 トマス・アンナの あんなこと
こんなこと
姉妹都市 掛川だより
- 24 情報あらかると
- 28 奥州遺産

地域の個性が
ひかり輝く
自治と協働のまち
奥州市

使い手が心豊かになれる 品物を目指して

高橋 宏彰さん（55歳）
前沢区字裏新田



器への“絵付け”作業。下書きはせず一息に絵を描いていく

少年時代、外で遊ぶより家でプラモデルを作ることが好きだった高橋宏彰さん。専門学校に進みデザインを学んだものの「一から物を作りたい」と物足りなさを感じた。専門学校卒業後、全国を旅していたときに備前焼の陶工と出会い、焼き物の面白さを知った。25歳で石川県の職業訓練校に入学し陶磁器製造を学ぶと、同県の陶房に就職。その後、数年間の海外放浪の旅を経て、栃木県の福祉施設で陶芸作業や生活支援員として働いていた。

して働いていた宏彰さんの転機は50歳のとき。妻の故郷岩手県への移住を決意すると、市の空き家バンクを利用して見付けた物件を自宅兼工房にリノベーションし、磁器作家として本格的に活動を開始した。伝統の技術を基本に、新しいデザインにも挑戦。県内外のクラフト市などに積極的に出店し、徐々に販路も広がっている。「今は何でも使い捨ての時代、だからこそ大切に長く使ってもらえるものを作りたい」と語る宏彰さんの物作りへの情熱は尽きない。



たかはし・ひろあき◎昭和36年、北海道札幌市生まれ。「磁器作家たかはしひろあき」として自宅に「磁器工房タカハシ」を構え、食器を中心に染付と色絵の磁器の製造販売を行う。妻と娘との3人暮らし

《今月の表紙》



本年度の市成人式が1月8日、市文化会館（Zホール）で開催されました。市内の中学校卒業生など対象の新成人1,189人のうち984人が式に出席。華やかな振り袖やスーツ、はかまなどに身を包み、人生の新たな門出を迎えました。

写真は、式典で「明確な夢と希望を描き、実現を諦めない自分をつくり上げてほしい」とエールを送る小沢昌記市長を見つめる新成人たち。祝福される気恥ずかしさと、大人としての責任への自覚が表情に表れています。【市成人式グラフは14・15ページに掲載】



——奥州ふるさと応援寄附（ふるさと納税）謝礼品——

まごころを、きみに



奥州ふるさと応援寄附の歩み

市は、平成27年1月に奥州ふるさと応援寄附（ふるさと納税）をリニューアルし、市の特産品などを謝礼品として贈る取り組みを始めました。魅力ある特産品は多くの人の関心を呼び、寄付の件数・金額が大幅に増加するとともに、本市のPRにもつながっています。今回は、謝礼品の出品者の声を皆さんにお届けし、奥州ふるさと応援寄附の今後を考えます。

■問い合わせ先 本庁元気戦略室（内線471）

平成20年の地方税法改正により、個人住民税の寄付金税制が拡充し生まれた「ふるさと納税」。緩やかに浸透していったこの制度は、東日本大震災の被災地への寄付で注目を集め、寄付に対して返礼の品を贈る自治体が現れたことで、一般に広く認知されるようになりまし。寄付で自治体の歳入が増加するだけでなく、特産品などを贈ることで、自治体のPRや地域の産業振興につながっています。

市は20年度から、応援の気持ちが届けられた寄付金をまちづくりにかす「奥州ふるさと応援寄附」を開始し、お礼の手紙を贈ることで寄付者に感謝の気持ちを伝えていきました。26年度に、特産品に触れることで多くの「奥州市のファン」が生まれることを期待し、奥州ふるさと応援寄附返礼事業の開始を決定。27年1月1日から寄付金の控除額が約2倍となったことを受け、1月15日より実施しています。

市の謝礼品の取り組みの特徴は、ポイント制であること。寄付金に応じてポイントが付与され、ポイントを使って自由に特産品などを受け取ることができます。寄付者の利便性を高めるため、27年4月からはクレジットカードでの寄付を可能にしたほか、28年6月には、ポイントの即時発行（クレジットカード決済のみ）を導入するなど、改善に努めてきました。

27年度の寄付件数は6663件で、前年度の約15倍。「奥州市のファン」は確実に増えています。